

素材生産動向（概要） — 令和3年2月見通し —

令和3年2月18日
北海道森林管理局
（担当：資源活用第一課）

調査対象事業体数

	事業体数 (A)	調査対象数 (B)	回答数 (C)	回答率 (C)/(B)	該当する(総合) 振興局
全道	536	258	202	78%	
札幌地区	114	63	47	75%	石狩、空知、胆振、日高
旭川地区	112	64	50	78%	上川、留萌、宗谷
北見地区	83	44	31	70%	オホーツク
帯広地区	159	42	31	74%	十勝、釧路、根室
函館地区	68	45	43	96%	渡島、檜山、後志

（注）事業体数(A)は、北海道林業事業体登録制度に基づき登録された林業事業体のうち、素材生産事業を実施している者。調査対象数(B)は、アンケート調査の結果により実質的に素材生産事業を行っていない者を除いた数。

【2月の素材生産動向（概要）に対するコメント】

- 「1.素材生産量」では、1月実績の226.4千m³と比べ、2月見通しは8.4千m³減の218.0千m³となっています。地区別では、前月実績より札幌、旭川地区で減る見通しとなっています。
- 「2.素材生産量の増減」の比率では「増える」が38%、「変わらない」が34%、「減る」が28%となっています。
- 「3.素材生産動向」の全般的な動きでは、「順調」が13%、「並み」が66%、「不調」が21%で不調が減少しています。材種別に見ると、一般材は不調ながらも昨年と比較し並み～順調の割合が増加しています。原材料は並み程度の見通しとなっています。
- 「4.素材生産動向の事由」は、「通常の変動」以外では、減の事由として「天候不順」が最も多く、次点で「事業地不足」「労働力不足」となり、昨年4月から10ヶ月連続で最も多かった「丸太注文の減少」による事由が縮小しています。

1. 素材生産量

（単位：千m³）

区分	全道			札幌地区			旭川地区			北見地区			帯広地区			函館地区		
	前月	当月	差	前月	当月	差	前月	当月	差	前月	当月	差	前月	当月	差	前月	当月	差
素材生産量	[223.9] 226.4	218.0	-8.4	[49.3] 60.1	48.7	-11.4	[30.6] 43.0	37.4	-5.6	[58.5] 48.1	53.3	5.2	[53.7] 49.8	50.7	0.9	[31.8] 25.4	27.9	2.5

（注）前月数量の、上段【 】書きは前月見通し、下段は調査回答のあった事業体の実績を記載。

2. 素材生産量の増減

（単位：%）

区分	全道			札幌地区			旭川地区			北見地区			帯広地区			函館地区		
	前月	当月	差	前月	当月	差	前月	当月	差	前月	当月	差	前月	当月	差	前月	当月	差
増える	34	38	4	27	34	7	38	40	2	41	42	1	45	42	-3	26	35	9
変わらない	31	34	3	38	28	-10	18	40	22	31	35	4	17	13	-4	41	49	8
減る	35	28	-7	35	38	3	44	20	-24	28	23	-5	38	45	7	33	16	-17

3. 素材生産動向

(1) 全般

(単位：%)

区分	全道			札幌地区			旭川地区			北見地区			帯広地区			函館地区		
	前月	当月	差	前月	当月	差	前月	当月	差	前月	当月	差	前月	当月	差	前月	当月	差
極めて順調	1	1	0	0	0	0	3	0	-3	0	0	0	4	0	-4	0	3	3
やや順調	18	12	-6	15	19	4	19	11	-8	17	10	-7	18	7	-11	19	15	-4
並み	56	66	10	61	59	-2	62	76	14	45	73	28	53	59	6	55	58	3
やや不調	23	19	-4	21	16	-5	16	13	-3	35	14	-21	21	31	10	26	24	-2
極めて不調	2	2	0	3	6	3	0	0	0	3	3	0	4	3	-1	0	0	0

(注) 各区分に回答した事業者の構成比

(2) 樹材種

(単位：回答数)

区分	全道							札幌地区							旭川地区							
	カラマツ一般材	トドマツ一般材	その他N一般材	L一般材	カラマツ原料材	N原料材	L原料材	カラマツ一般材	トドマツ一般材	その他N一般材	L一般材	カラマツ原料材	N原料材	L原料材	カラマツ一般材	トドマツ一般材	その他N一般材	L一般材	カラマツ原料材	N原料材	L原料材	
極めて順調	1	1	1	1	2	3	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
やや順調	16	13	6	5	14	14	6	6	5	2	1	7	4	1	2	3	1	1	1	1	0	
並み	60	68	30	34	59	77	58	12	14	3	6	8	16	8	14	21	6	8	15	23	22	
やや不調	11	18	22	22	5	14	11	1	7	1	0	0	2	1	2	6	5	6	1	5	2	
極めて不調	7	9	4	8	3	3	6	1	1	1	3	1	1	2	2	2	0	2	1	2	2	

(単位：回答数)

区分	北見地区							帯広地区							函館地区						
	カラマツ一般材	トドマツ一般材	その他N一般材	L一般材	カラマツ原料材	N原料材	L原料材	カラマツ一般材	トドマツ一般材	その他N一般材	L一般材	カラマツ原料材	N原料材	L原料材	カラマツ一般材	トドマツ一般材	その他N一般材	L一般材	カラマツ原料材	N原料材	L原料材
極めて順調	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	2	2	1
やや順調	2	2	1	1	2	4	2	3	1	0	0	2	1	1	3	2	2	2	2	4	2
並み	13	16	8	8	14	12	11	13	8	5	8	16	18	12	8	9	8	4	6	8	5
やや不調	3	1	3	5	1	1	0	4	1	8	6	1	3	5	1	3	5	5	2	3	3
極めて不調	2	1	0	1	1	0	1	1	2	2	2	0	0	1	1	3	1	0	0	0	0

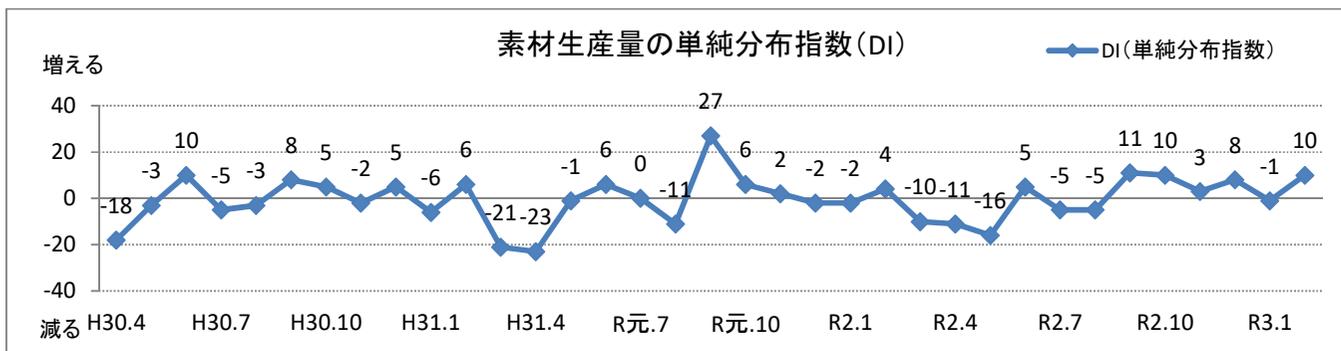
4. 素材生産動向の事由

(単位：回答数)

	丸太注文の増加	時間外など稼働率向上	体制充実	生産性の向上	通常の変動	その他		
数量の増	7	1	3	7	54	0		
	丸太注文の減少	事業地不足	労働力不足	運材車不足	機械の故障等不測の事態	天候不順	通常の変動	その他
数量の減	11	15	14	7	6	18	28	8

(注) 該当するものについて複数回答

(参考)



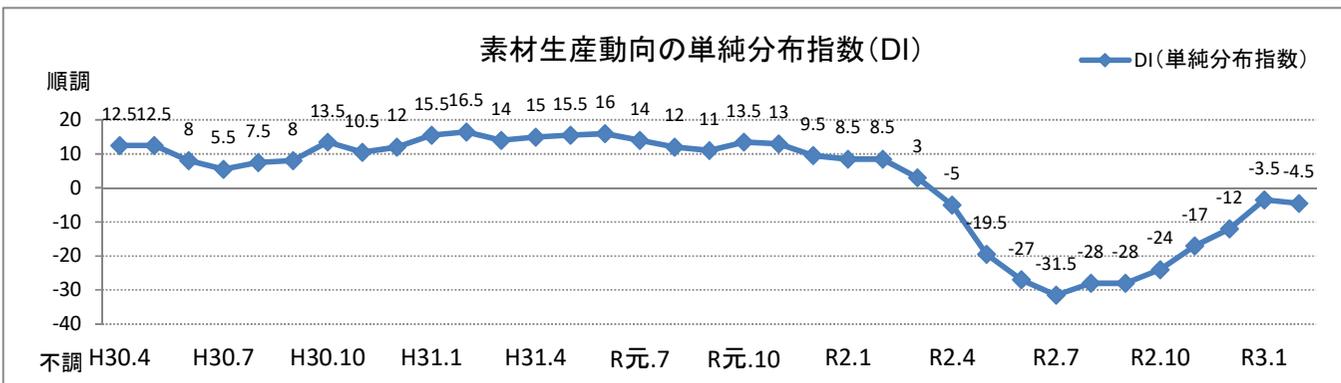
※「素材生産量の単純分布指数 (DI)」とは
アンケート調査の回答においてプラス（増える）見通しとマイナス（減る）見通しの事業体のバランスの変化を捉えるためのものです。

令和3年2月

区分	有効回答数	構成百分率
増える	77	38%
変わらない	69	34%
減る	56	28%
合計	202	100%

素材生産量の単純分布指数 (DI)
= 38% - 28%

有効回答数とは、前月との比較が可能な事業体数



※「素材生産動向の単純分布指数 (DI)」とは
アンケート調査の回答においてプラス（極めて順調、やや順調）の選択肢とマイナス（やや不調、極めて不調）の選択肢を選んだ事業体のバランスの変化を捉えるためのものです。

令和3年2月

区分	有効回答数	構成百分率
極めて順調	1	1%
やや順調	20	12%
並み	105	66%
やや不調	31	19%
極めて不調	4	2%
合計	161	100%

素材生産動向の単純分布指数(DI)
= 1% + $\frac{12\%}{2}$ - ($\frac{19\%}{2}$ + 2%)

有効回答数とは、前月との比較が可能な事業体数

